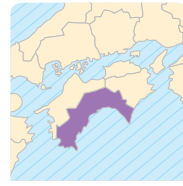


取材日：2019年2月7日



糖尿病



高知県

## 多彩なアイデアで本格運用をめざす 糖尿病性腎症重症化予防プログラム。

### Point of View

- ① 高知県の特徴を洗い出し、それを踏まえて糖尿病性腎症重症化予防プログラムを策定
- ② さまざまな工夫により、かかりつけ医に対して糖尿病性腎症重症化予防プログラムの認知度アップと利用を促す
- ③ 県全域で糖尿病性腎症重症化予防プログラムが稼働するよう各地域に“キーパーソン”の配置を構想

高知大学医学部  
内分泌代謝・腎臓内科教授  
藤本 新平先生

医療法人尚腎会高知高須病院  
糖尿病内科部長  
末廣 正先生

高松内科クリニック  
院長  
高松 和永先生

医療法人高田会高知記念病院  
糖尿病内科部長  
池田 幸雄先生

佐川町立高北国民健康保険病院  
内科/医療局長  
太田 喜久子先生

### 重症化予防プログラムに向け 県の特徴を洗い出す

糖尿病性腎症重症化予防が国策となり、都道府県ではそれぞれの事情を反映した糖尿病性腎症重症化予防プログラムを策定している。高知県でも2018年1月、高知県医師会、高知県糖尿病医療体制検討会議、高知県が協働し、『高知県糖尿病性腎症重症化予防プログラム』（以下、重症化予防プログラム）を策定した。

高知県糖尿病医療体制検討会議の座長を務め、重症化予防プログラムにたずさわってきた高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科教授の藤本先生が、プログラム策定に向けて洗い出された高知県の特徴を解説する。

「特定健診の受診率が全国平均をまわっている（【資料1】）、全国有数の高齢化率の高い県、生活習慣指導の経験のある保健師が少ない、さらに糖尿病専門医や日本糖尿病療養指導士（CDEJ）の都市部への偏在などが挙げられます」（藤本先生）

高齢化率が高いのだから潜在的な糖尿病患者は多いはずだが、特定健

診受診率が低いと患者の拾い上げが不十分であり、加えて生活習慣指導や治療、療養指導にあたる人材不足に苦慮する様子が見えがえる。

しかし一方で、高知県では重症化予防プログラムの策定に先んじて、県の慢性腎臓病（CKD）対策が展開されてきた。

「県の事業として、管理栄養士がい



左から藤本先生、末廣先生、高松先生、池田先生、太田先生

ないため糖尿病患者に栄養指導が十分に行えない診療所に対し、外来で栄養指導だけをしてもらえる医療機関を紹介する『外来栄養指導紹介推進事業』があります。かかりつけ医の先生方が糖尿病の重症化を阻止するうえでのいちばんのネックは栄養指導。その点をフォローしようという事業です」(藤本先生)

### 高齢化率が高いなどに配慮 実態に即したプログラムを

重症化予防プログラムは、こうした県の特徴をしっかりと踏まえて策定された。具体的な内容は、【資料2】のとおり。プログラムIは、医療機関未受診者及び治療中断者に向けたもの。保険者が特定健診の結果やレセプトから対象者を抽出、保健師などが受診勧奨をして受診の開始や再開につなげる。

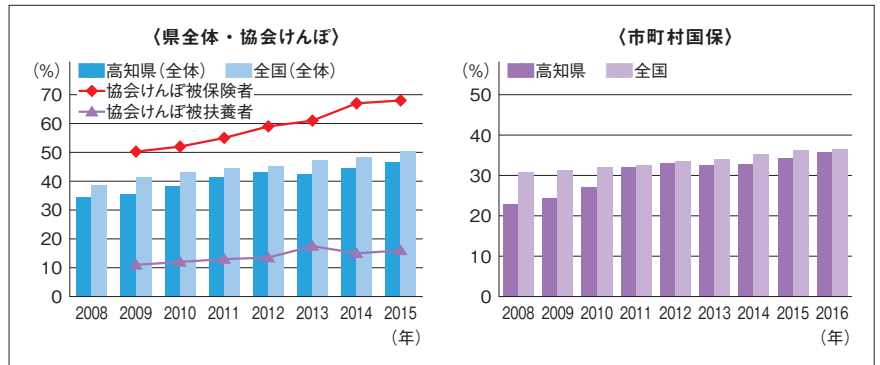
「受診勧奨はこれまでも行っていましたが、効果はいまひとつでした。そこで本プログラムでは、未受診者には、実際に医療機関を受診したのかを確認し、受診していない場合には、手紙に加えて電話や戸別訪問もするなど受診勧奨を徹底します。

また、治療中断者に関しては、レセプトデータから6ヵ月以上の治療中断が認められた患者を対象に同様の受診勧奨をします」(藤本先生)

もうひとつのプログラムIIは、糖尿病治療を受けているものの、コン

【資料1】

### 特定健診の受診率



出典：平成30年度第1回高知県糖尿病医療体制検討会議資料

トロール不良で重症化リスクの高い患者に対するもの。対象となる患者のHbA1cや血圧などの基準値は、他県の重症化予防プログラムで用いられるそれより緩めだ。

「たとえばHbA1cは、若年者と高齢者とは最適な基準値に差異が存在します。ですから高齢者が多い当県では、基準値をやや緩めに設定しました。また、さまざまな生活背景を持つ高齢者に対し十把一絡げにガイドラインどおりの治療をするのはやや乱暴で、経過を見ながら少しずつ介入しなければならないケースも多々あります。

そこで、本プログラムを適用するかどうかは、かかりつけ医の先生が患者さんの状況などに応じて判断できるようにしています」(藤本先生)

そして、かかりつけ医がプログラムの利用が必要だと判断すれば、①栄養指導のできる専門医療機関への紹介、②他院の外来栄養指導や保険者の保健指導を活用する専門医療機関への紹介、③他院の外来栄養指導や保険者の保健指導を活用し血糖管理、血圧管理は自院で

診療、の3つから選べる仕組みとなっている。

### 1年経過して見えてきた課題 それは医師の認知度アップ

重症化予防プログラムの開始から1年強が経過した現在、さまざまな立場で糖尿病診療に取り組まれている先生方からプログラムに関する活動や状況を聞いた。

高知高須病院糖尿病内科部長の末廣先生は、藤本先生同様、重症化予防プログラムの策定にかかわったメンバーのひとり。

「プログラムの内容を知らない先生が多くいるのを感じ、この1年間、本プログラムをテーマに県内各地で何回も講演をしました」(末廣先生)

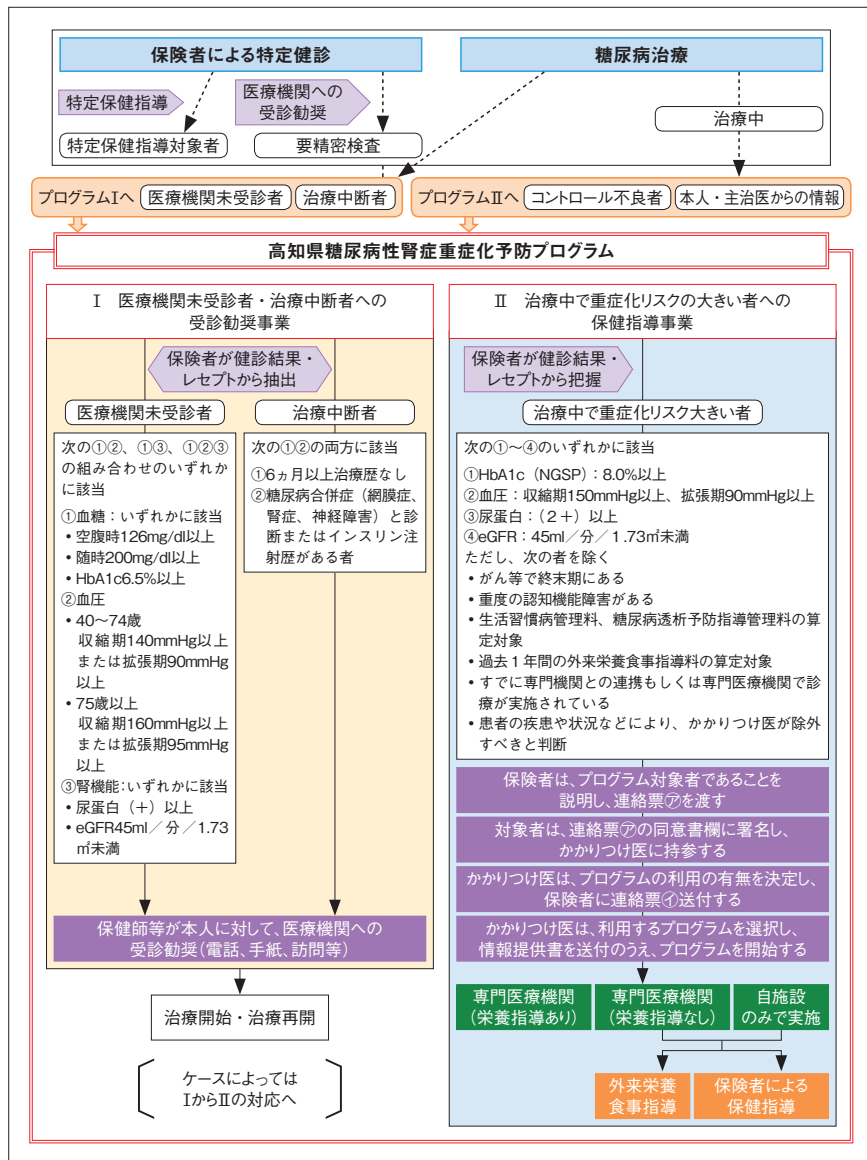
高知記念病院糖尿病内科部長の池田先生は、高知市内の専門医療機関の医師の立場から話す。

「当院では、血糖コントロールが不良な患者さん、あるいは糖尿病性腎症を含めた合併症の進行した患者さんを高知市内外からご紹介いただいています。しかし、今のところ重症化予防プログラムにより受診された患者さんはゼロです」(池田先生)

県中西部の佐川町に所在する高北



高知県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの体系



出典：高知県糖尿病性腎症重症化予防プログラム

国民健康保険病院内科／医療局長の太田先生は、郡部での状況を語ってくれた。「当院では、藤本先生のお話にあった県の事業である外来栄養指導を行っているのですが、患者さんを紹介して下さるのは一部の診療所の先生方だけで、広くご紹介をいただくまでにはいたっていないのが現実です」(太田先生)

高知市内で開業する高松内科クリニック院長で、糖尿病が専門の高松先生が言う。「昨年の12月、治療を中断していた患者さんが、保健師の訪問受診勧奨を受けて来院され、重症化する前に治療を受けられて本当に良かったと喜んでおられました。かかりつけ医の先生方に本プログラムを知っていただく必要性を痛感した出来事でした」(高松先生)

た」(高松先生)

重症化予防プログラムが稼働して1年。かかりつけ医の認知度アップが喫緊の課題であると見えてきた。

課題解決のためのユニークなアイデアが次々と提案される

では、課題解決のためには、どんなアクションが必要なのだろうか。

講演活動の告知を医師に重点的にしたいと話すのは末廣先生。「私の重症化予防プログラムに関する講演を聞きに来てくださる方は、ほとんどが保険者や行政の担当で本プログラムをいちばん知っていたいただきたいかかりつけ医の先生の姿はわずか。もっと、先生方に来ていただけるよう繰り返し告知をしたいと思います」(末廣先生)

高松先生は、かかりつけ医へのアピールの方法を披露してくれた。「尿中微量アルブミンやeGFRを定期的に測定する重要性を、かかりつけ医の先生方に知っていただく機会をつくと良いと思います。

そうすれば、腎症の重症化が進んだ患者さんを専門医に相談せずに診続けるリスクを認識し、重症化予防プログラムを利用する気持ちになってもらえるのではないのでしょうか」(高松先生)

池田先生は、多忙なかかりつけ医に重症化予防プログラムの“土俵”に乗ってもらうのは簡単ではないとし、むしろ患者側への情報提供の仕方を変えて、医師の意識改革を促す提案をする。まさに逆転の発想だ。「健康教室などを開催し、特定健診の受診を訴えたとしても、もともと健康に関心の高い方が参加しているので、あまり受診率向上にはつながらないジレンマがあります。

ですから健康に無関心な方や生活

が不規則になりがちなシフトワーカーなどの方にも届きやすいラジオやテレビといったマスメディアを使い3分ほどの短時間で糖尿病合併症や重症化の深刻さを伝えてはいかがでしょうか。そこで受診する患者さんが増えれば、かかりつけ医も重症化予防プログラムに関心を寄せるようになると思います」(池田先生)

太田先生は、情報が行きわたりづらい郡部での対策に関して語る。「郡部では、管理栄養士はいても、糖尿病専門医がいない医療機関が多いので、外来栄養指導の推進を通して重症化予防プログラムをかかりつけ医の皆さんに知っていただくのはどうでしょう」(太田先生)

## 大胆な挑戦をしつつ 長い目で成果を待つ

重症化予防プログラムが、なかなか普及していない点が浮き彫りになったが、先生方の展望は明るい。「特定健診の効果が2008年の開始から10年以上たった最近になって現れ始めたほどですから、重症化予防プログラムもある程度長いスパンで進めていけばいい。それにこの1年間で進捗がなかったとは思いません。先日、ある地区で講演をした際、受診勧奨を受けて治療を再開した患者さんがけっこういることを知りました。成果は着実に出ています」(末廣先生)

1年間での評価は拙速にすぎるとの考えは、太田先生も同じだ。「郡部では、まだプログラムの実施準備段階で、2019年度から本格的に稼働する予定の自治体もあります。プログラムを活用する市町村が増えるにつれ、当院の外来栄養指導への紹介件数も増えるのではないかと予想しています」(太田先生)

池田先生は、専門医の高いモチベーションに期待を寄せる。

「プログラムⅡにのっとって、かかりつけ医の先生が糖尿病性腎症の患者さんを専門医に紹介してくださったときに『紹介しても、たいして治療に変化がないじゃないか』と思われたら、たぶんその先生はもう紹介はしないでしょう。すぐには目覚ましいアウトカムが出づらい疾患なので難しい側面はありますが、専門医が紹介元のかかりつけ医の先生に対し、ある程度満足してもらえるレスポンスをできるか否かで、かかりつけ医の先生がプログラムを継続して活用するかどうかが決まります。その意味では紹介される側が気を引き締めて対応しなければなりません。

とはいえ、当県にはモチベーションの高い専門医の先生方がたくさんいらっしゃるので、かかりつけ医の先生方からの紹介が増えれば、プログラムは、自ずと軌道に乗るものと信じています」(池田先生)

高松先生も関係者のやる気に信頼を示す。

「先ほど申し上げたように、重症化する前に治療を望んでいる患者さんは、実際、大勢いるはずですが、したがって、本プログラムの関係者すべてが、今までどおり力を合わせて地道に努力を続けていけば、プログラムは必ずや成功します」(高松先生)

藤本先生は、地域ごとに“キーパーソン”を設ければ、事態は一挙に変わるだろうと予測する。

「先日、郡部に視察に訪れたのですが、おひとり熱心な先生がおられ、医師や多職種、保健師などを巻き込んでモデルケースと言えるほどプログラムが活用されていました。これを目の当たりにして、都市部、郡部に限らず、ひとり“キーパーソン”の医師がいれば、プログラムは軌道

に乗るのだと実感したわけです。つまりは、人次第なのですね。

今後は、いろいろな地域で意見交換をする中で熱心な医師を見つけ出し、“キーパーソン”になっていただくような活動も積極的にしていきます。そうすれば、重症化予防プログラムは、想像以上のスピードで運用されるようになるかと確信します」(藤本先生)

まだまだ始まったばかりの高知県の重症化予防プログラム。課題もあるが、各先生方の多彩なアイデアを実行していけば、全国から注目のプログラムに育つことだろう。

### 高知大学医学部附属病院

〒783-8505  
高知県南国市岡豊町小蓮185-1  
TEL: 088-866-5811

### 医療法人尚賢会 高知高須病院

〒781-5103  
高知県高知市大津乙2705-1  
TEL: 088-878-3377

### 高松内科クリニック

〒780-0052  
高知県高知市大川筋2-5-48  
TEL: 088-872-5500

### 医療法人高田会 高知記念病院

〒780-0824  
高知県高知市城見町4-13  
TEL: 088-883-4377

### 佐川町立高北国民健康保険病院

〒789-1201  
高知県高岡郡佐川町甲1687  
TEL: 0889-22-1166